

兵庫県がカドミウム低吸収性の水稲品種を導入するとするインターネット上の情報に関する県の見解

放射線育種により育成されたカドミウム低吸収性の水稲品種「コシヒカリ環1号」に関してインターネット上のSNS等で兵庫県に言及されていることについて、本県の見解は以下のとおりです。

1 本県が2025年からコシヒカリをコシヒカリ環1号に切り替えるとした情報について

コシヒカリ環1号は、カドミウムをほとんど吸収しない水稲の品種であり、より安全な兵庫県産のお米を生産するために本品種の導入を選択肢の一つとして検討していますが、本県での導入の決定はしていません。

カドミウムは全国の土壌中に存在し、水稲は栽培中に微量のカドミウムを吸収します。お米のカドミウム濃度は、食品衛生法で基準値が設定されており、基準値を超えるお米が流通しないよう対策が行われています。そのため、市場には安全に食べられるお米が流通していますが、カドミウム摂取量をさらに減らすため、カドミウム低吸収性の水稲品種が国の研究機関で開発されました。

2 放射線育種されたお米の安全性について

放射線育種された品種のお米は、生育中の水稲や収穫後のお米に直接放射線を照射しているものではなく、育種の最初の段階で、一度だけ放射線を照射して突然変異を起こさせたものです。その後、農業上有用な性質を持った個体を何世代も選抜しているので、新しい品種として登録されるまでには、何年も経過しています。したがって、お米に放射線が残っていることはなく、もちろん自ら放射線を出すものでもありません。

自然界でも宇宙線や大気、大地などからの自然放射線で突然変異が発生しています。放射線育種は、このような自然放射線による影響と同じ種類の効果を放射線の照射によって短期間で得る手法で、お米だけでなく野菜や果樹など様々な品目の育種でも使われています。コシヒカリ環1号もこの技術で育種された品種であり、従来の手法で開発された品種のお米と同様に安全なものです。

<参考情報>

- ・カドミウムをほとんど含まない水稲品種「コシヒカリ環1号」

[独立行政法人農業環境技術研究所・独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構(現:国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)]

<https://www.naro.affrc.go.jp/archive/niaes/techdoc/press/140130/>

- ・ IRB～突然変異と新しい品種～

〔独立行政法人 農業生物資源研究所（現：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）（2003年2月発行）〕

<http://www.aec.go.jp/jicst/NC/iinkai/teirei/siryo2003/siryo23/siryo-p.pdf>

- ・ 放射線育種について

〔農林水産技術会議〕

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/mutationbreed/mutationbreeding.html>

【問合先】 農林水産部農業改良課 環境創造型農業推進班 078-362-9210(直通)